

山口大学医学部附属病院 緩和ケア研修会報告

山口大学医学部附属病院
緩和ケアセンター事務局
三上千尋

平成 28 年 5 月 7 日（土）、8 日（日）に山口大学医学部附属病院主催緩和ケア研修会が ANA クラウンプラザホテル宇部で開催されました。「がん対策基本法」に基づく「がん対策推進基本計画」において、「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについて基本的な知識を習得する」ことが目標と掲げられています。この目標達成のため、国が定めた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づき、統一的なプログラムによる研修会を実施しています。

当院の吉野茂文腫瘍センター副センター長の開会の挨拶に始まり、2 日間で 12 時間以上の講義、グループ演習、ロールプレイ形式で行われました。研修内容は、がん性疼痛治療法、身体症状に関する緩和ケア、精神症状に関する緩和ケア、コミュニケーション技術等を含む内容でした。当院から、保健管理センターの松原先生、緩和ケアセンターの松元先生、麻酔科蘇生科の原田先生・森先生、看護部の宮内看護師、MSW の高砂さん、また、ペインクリニック山本医院の山本院長、佐藤クリニックペインクリニック科の平賀先生、山口赤十字病院麻酔科の山縣先生をファシリテーターとして迎え、当院及び近隣の病院の先生方をはじめ様々な診療科から、40 名の参加がありました。

講義、グループワーク、ロールプレイ、どの形式においても様々な意見や質問が活発に出され、参加者の真剣さや意欲の高さを感じることができました。

参加者の先生方からは「緩和ケアの知識をしっかりと学ぶことが出来ました。参加して良かったです」「日常診療で使うコミュニケーションについて詳しく学ぶことが出来、大変有意義であった」「緩和ケアについて、薬物治療から心のケア、在宅への支援など幅広くまとめて勉強することができて大変良かった。講義のみならず、グループワークやロールプレイが新鮮で普段とは異なる患者の役になるという経験がとても勉強になりました」など多くの意見が寄せられ、有意義な研修会となり無事終了することが出来ました。

《研修会風景》



